

特定非営利活動法人 ピアソン会

第76号

2017. 9. 30

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局
 （事務局長 伊藤 悟）
 〒090-0036
 北見市幸町7丁目4番28号
 Tel: 0157-31-1215
 ピアソン記念館内
 AM.9:30 ~ PM.4:30
 e-mail アドレス
 pierson@yacht.ocn.ne.jp

カーリング 世界つかめ

北海道新聞 2017年9月5日（火曜日）

LS北見
熱い期待

女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ（常呂っ子の太陽）」が、来年開催平昌冬季五輪への出場権をかけた決定戦（9月8・9・10日）勝利祈願映画会を、9月2日土曜日ピアソン記念館にて開催。子供5人を含む20余名の参加で、郷土を代表する冬のスポーツ、カーリングの魅力を学びました。

ピアソン会吉田理事長の挨拶の後、中山一夫映画会担当理事から、北見地域に於けるカーリングの歴史について説明、また35年前、北見の子供たちが親しめるようにと製作された子供用カーリングストーンを手に、『カーリングの魅力』をこの映画を通して感じてもらえれば』と、さらに「そのためには是非LS北見がオリンピック代表になるように応援しましょう!』と。映画会は2時間で終了し、帰りに北見市が作成した『応援缶バッジ』も配布しました。



常呂町の五輪女子チームモデル
 映画「シムソンス」に雄姿を重ね
 平昌冬季五輪カーリング女子代表決定戦に出場するLS北見を応援しようと、NPO法人ピアソン会が、北見市のピアソン記念館で、映画「シムソンス」の上映会を行った。
 映画は2002年のソルトレークシティ冬季五輪に出場したカーリングの歴史について話す中山理事（左から大目）

北見でピアソン会が上映
 場した常呂町のカーリング女子代表チームがモデルで、女子高生4人がチームを結成して奮闘する姿を描いた。
 上映会には約20人が参加。約2時間の上映後、同会の中山一夫理事はストーンを手に、北見とカーリングの歴史などについて説明した。市内の矢野礼子さん68は「カーリングに興味を持ちました。テレビでLS北見を応援したい」と話していた。（積極朗吉）

見事に代表権獲得!

9月8日金曜日から、北見市のアドヴィックス常呂カーリングホールで開催されました。
 出場チームは、昨年日本選手権を制し同年世界選手権で銀メダルに輝いた「ロコ・ソラーレ北見」と、今年の日本選手権の覇者「中部電力」の2チーム。5試合のうち先に3勝したチームが日本代表として平昌五輪の出場権を獲得する戦いでした。
 決定戦初日の8日の第

第16回文化サロン de ピアソン ロコ・ソラーレLS北見の冬季五輪代表祈願!!
 映画会『シムソンス』の上映会終了&五輪出場決定報告!

一試合は9対1でLS北見の勝利。9日の第二試合は5対7で中部電力、第三試合は8対3でLS北見。10日の第四試合は、9対5でLS北見の勝利。この結果LS北見が五輪出場権を獲得しました。
 本橋さん、鈴木さん、吉田姉妹、藤澤さん、おめでとう!。関係者の皆様おめでとうございます。
 （ピアソン会会員一同より）



【写真右】代表決定戦に勝利し、お祝いの花束を手に、歓びを噛みしめるロコ・ソラーレLS北見のメンバー。

素敵なお来館者たち！

スナッツ写真⑪



写真右／展示解説映像の観賞。

佐呂間町と姉妹都市のアラスカ・パーマー市から、アメリカ長老派教会（ピアノン氏と同じ教派）牧師夫妻が7月末に来館されました。ティモシー・キャリック氏、ライザ・キャリックさん共に牧師で、佐呂間教会の森下真裕美牧師の案内での来館でした。

ピアノン夫妻が40年に渡って活動された日本での足跡を、じっくりと学んでおられました。ご主人のティモシー氏は、日本に宣教師として赴任していたこともあり、ピアノン氏が日本伝道で残された業績に、深く感激しております。

スナッツ写真⑬



遠軽開拓の功労者の野口芳太郎は、土佐高知から武市安哉と浦白の聖園農場に入植し、その後遠軽の学田農場の指導員となり、後に遠軽の郵便局長となった。ピアノン夫妻には「ブリスカ一家」と呼ばれるほど信頼されていた。

左上ピアノン夫妻の写真は、有名な学田（遠軽）での写真であるが、1910（明治43）年6月に瞰望



野口芳太郎さんの玄孫来館！

やしやこ

岩下にある野口家の前での記念写真で、左端に立っているのが芳太郎である。

その曾孫と玄孫にあたる方が8月に来館された。曾孫の方は野口圭介さん。現在は蘭越町で農業を営んでいるとのことであるが、奥様はアメリカの方で、日本の教会で働いていたとのこと。3人の子供が玄孫ということになります。

右上写真のように、ピアノン夫妻愛用のオルガンを、器用に足踏みしながら仲良く弾いていました。ピアノン夫妻もびっくりでしょう。



スナッツ写真⑱

最近では東南アジアからの来館者が増えています。台湾、シンガポール、香港など、少数のグループで来館される方が目立ちます。数年前は冬期間が多かったのですが近頃は通年という感じになってきています。それでも北見は他の地域に比べて少ない方だと感じます。

8月29日にはほとんど日本語がわからない香港の来館者がありました。音声ガイドダンスの利用を促すと、アイパッドということもありすぐに使いこなし、中国語と英語両方を使い、小一時間かけて館内を廻りニコニコ顔で帰られました。

写真左／英語で、「音声ガイドダンスがとてもよく、この記念館のことがよく理解できました」と喜んでくれました。

スナッツ写真⑳



9月12日に、北見のパラポで開催されていた「秋の全国うまいもの会」に出店されていた千葉と高知の2店舗の方が来館されました。どちらもピアノン夫妻には深く関わりのある土地柄でもあるので、そのことを説明すると、「記念撮影を！」ということになりました。特に姉妹都市高知の『くれ竹』さんは、恒例の冬の「高知県の観光と物産展」にも出店しているとのこと。今年の冬にまた会えることを約束し、お見送りしました。

写真上／右側前後二人は千葉のお店の方、真ん中二人が高知の「くれ竹」のオーナー。左端にピアノン会吉田理事長。



10月17日(火)～11月19日(日)まで、2階展示室にて 「ピアソン関連未公開「新資料企画展」の開催！」

「田舎伝道者」ピアソン宣教師夫妻」の著者、故小池創造牧師の長女小池静さん(旭川在住)より、8月末にピアソン夫妻関連資料が、日本キリスト教会北見教会を通じ当NPO法人ピアソン会に寄贈されました。

資料の中には、未公開の貴重な資料も含まれており、緊急に「新資料企画展」を開催することになりました。

例年この時期には「リードオルガンコンサート」を開催しておりますが、本年はその予算をこの企画展へ振替えての緊急企画となります。

資料の中には、ピアソン寮の「棟上げ」の記念写真もあり、入寮予定の生徒たち、野付牛中学校の先生、建築に関わる大工さん達、さらにイカンノさんとアイヌ婦人など。

資料の詳しい調査研究は後日になりますが、一部を公開することで、さらに新しい情報を得ることが可能となるかもしれません。

故小池創造牧師は、1967(昭和42)年の12月に「田舎伝道者」を著作発刊しました。その本の記事が報道されると、ピアソン夫妻縁の人々より、小池氏へ多くの手紙が寄せられ、さらに新しい情報があったようです。今から50年前には在日時代のピアソン夫妻に直接に接していた人々もまだ多くご健在の時代だったからでしょう。

今回寄贈された資料は、出版以降に寄せられた資料や情報が主な

家のことすべてイカンノさんに任せていましたよ」などと語られていましたが、その片鱗を伺える文章です。

最近では、ピアソン夫妻に関する新資料は中々見つからなくなってしまうようですが、今回の資料を公開し、多くの方々に見ていただくことで、さらに新しい情報を得ることができればと期待しています。

故小池牧師へ、帰国時のピアソン夫妻の手紙提供、作家三浦綾子さんの手紙、鶴川の辺泥和郎さんからの手紙、などなど。「新資料企画展」にぜひご来館ください。



写真右/ピアソン夫妻の旭川時代日曜学校の生徒たち。写真をボストカードにして生徒たちに提供していた。1910(M43)年3月撮影。

啓「ピアソン学事始め」

③

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(3) 「ピアソン学」って、何なの？

「ピアソン学」などという学問分野がある訳ではないし、ましてピアソン宣教師の宗教学について書こうなどと「ピアソン学事始」とのタイトルをつけたものではありません。何かの縁があつてピアソン会の事務局を手伝うようになり、人生の晩年いろいろ感じる事もあり、そんな立場からピアソン会活動を通して学んだ事を、思ったまま記録に残しておこうと、このタイトルに至った訳です。

さて、15年前の2002年10月25日に、ピアソン記念館前庭に写真のような記念碑が建立されました。碑文には、ピアソン夫妻が明治43年6月に、現在の西相内付近に到達した時の文章が原文で刻まれ、その下には訳文も刻まれています。この記念碑はピアソン記念館のすぐ前の会社「(株)天内工務店」さんから北見市への寄贈で実現したのですが、この素晴らしいプレゼントに私たちピアソン会は本当に感激しました。

記念碑に刻む碑文については私たちピアソン会も相談を受け、当時の役員一同でこの内容の文を推薦しました。理由としては、北見の自然や

ピアソン会理事 伊藤 悟

風土の荘厳さと魅力を直感的な感覚で表現している文章で、このような碑文を、来館された人々に是非読んでいただきたいという思いからでした。私たちも、記念碑のようなものをいつか建立したいという夢を描いていたのですが、その夢が実現したのです。

ロゼッタストーンのように、石碑は地球上における記録保存方法としての実績では、一番信頼のおけるものです。これから何十万年・何百万年もの後に、『何故2種類の文字が刻まれているのか、そしてこの2種類の文字はどういう言語なの？』などと、謎をよぶ事になるかもしれませんね。



写真/記念碑と銘板。



「ニュージージーランドからの便り」第9回

～ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏～



*2017.8.3

最新のピアソン便りもいつものように興味溢れるものでした。特に嬉しかったのは、北見情報ビジネス専門学校生徒のピアソン記念館訪問でした。北見と北見の歴史をより深く理解する機会になるに違いありません。◆ここでは例年より雨が多かったので、今日の涼しい晴天は歓迎です。春の兆しはあっても北海道よりはゆっくりです。庭のモクレンが開きはじめています。シエークスピア公園のフアームで生まれた子羊たちは成長が早いです。ニュージージーランドでは家畜は通年戸外ですから寒気や風雨に耐えなければなりません。

◆送ってくださった漢字学者白川静氏の記事を興味ふかく読んでいます。際立った経歴は大変魅力的です。漢字の世界はなんと広範かつ深遠であり、翻って、自分は長年におよぶ漢字の学びにも関わらず、未知の領域がいかに多いかな

ど、改めて認識させられています。

本立ての大切にしている書籍の中には白川氏の『字統』と『漢字の世界』がありますので、それらも拾い読みしながら楽しんでいきます。その中に使われている全部の常用漢字や語彙の書き方を復習していきます。毎日、五つの文字に取り組んでいて、今日の語彙の中には冒険、検定、絹糸、憲法、政権があります。◆9月6日に弟と二人(シシガポール経由で)連合王国(英国)へ出かけるための準備中です。10月15日に帰国します。◆北見の皆さんによろしくお伝えください。

*2017.9.4

出発が明後日に迫りました。シシガポールでは仕事の関係で数週間滞在している姪一家と会います。

◆英国内の旅程は、ロンドン、ケント、ケンブリッジ、リンカーン、湖水地方、ノーサンブリアなどの訪問です。何カ所かはこれまでにも行ったことがあります。多くは初めてなので、興味深いことであることに特に熱心になっていきます。◆私たちは最近になって、ウオリス家はテムズ河畔のブラック

ウオールで造船業者であったことを知り、ロンドンのその辺りを訪ねてみようと思っっています。インターネットで見つけたのですが、1833年に大西洋を横断した第1番目の蒸気船ケイブ・ブレトン号は、ウオリス造船所での建造でした。残念ながら、造船所はその後間もない1838年に倒産してしまいます。私たちの先祖ジェイムズ・ウオリス牧師は、1834年にメソヂスト派宣教師としてニュージージーランドへ来ました。◆北見の秋、良い季節でありますように。ピアソン会の方々によろしくお伝えください。

*2017.9.15

ロンドンからこんにちは！

皆さんも北見の秋日和を楽しんでいらつしやることでしょう。このロンドンでは、木々は秋の兆しを見せていますが、先週土曜日(9月9日)の到着以来良い天候に恵まれています。弟と私もここでの滞在がとて楽しく、毎日がワクワクすることいっぱいです。◆今日は、滞在中のインペリアル・カレッジ近くにあるヴィクトリア&アルバート博物館へ行ってきました。◆昨日の朝はガードラズ・ホールを訪問し、とても温かい歓迎を受けました。ガードラズは、私がケンブリッジ(コルプス・ク

リスティ・カレッジ)で学んだ時に奨学金を支給してくれました。◆午後、ドックランズ博物館へ行きました。バスの、街の通りの素晴らしい眺めが見える二階座席一番前に座りました。ウオリス家の祖先はドックランズ地域のブラックウオールに居住して造船業を営んでいました。地域の教会敷地内に150年前に据えられたウオリス家の墓石を見つけました。多くある墓石のほとんどが判読不明の中で、これは奇跡的なことでした。

◆午後遅く、カナリ・ウオーフからウエストミンスターまでテムズ川を船で帰ってきました。川辺の壮観な眺望を楽しみつつ、タワーブリッジをはじめ、すべての有名な橋の下を潜り抜けました。◆ウエストミンスターでは国会議事堂や時計塔ビッグベンを見ました。別の日にはまたバックingham宮殿、ウエストミンスター寺院、国立美術館やその他多くの場所も見ました。◆明日はドーヴァーまで列車を利用し、ケントではレンタカーであちこちを見たいと思います。

◆北見の皆さんに、どうぞよろしくお伝えください。

▲▲前号に誤記がありました。お詫びし、訂正いたします。

北海学園理事長
Morimoto 守本正しくは「森本」です。

第17回文化サロン de ピアソン

講習会「クリスマスリースを作ってみよう!!!」

～ 「リースづくり講習会」とクリスマスバザー ～

- ◎場 所：講習会：ピアソン記念館2階応接室 予約申込 20名。材料費 1,500円必要。
 - ◎日 時：2017年11月26日(日曜日) 10時～15時の希望時間(制作1時間半必要)
 - ◎申 込：11月1日より受付開始。NPO法人ピアソン会(電話0157-31-1215)
 - ◎バザー：クリスマス飾付け用オーナメントの販売。当日来館自由です。
- ※詳しい事はNPO法人ピアソン会へお問い合わせください。

編集後記

枯葉が舞う季節が始まりました。ピアソン記念館の樹木も色付き風で木の葉が庭や道路へ舞い飛んでおります。毎朝記念館周りの枯葉清掃から一日の仕事が始まります。さて、未公開ピアソン資料の小規模の企画展を開催いたします。北見菊まつり時期に合わせてあります。ぜひお来館ください。秋の一日をピアソン記念館でお寛ぎいただければと存じます。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟